

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：34312

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520599

研究課題名(和文) 学習意欲を高めるアラビア語教育 コミュニカティブ・グラマーの提唱

研究課題名(英文) Teaching Communicative Grammar: How to Enhance Students' Desire to Learn Arabic

研究代表者

鷲見 朗子 (SUMI, Akiko)

京都ノートルダム女子大学・人間文化学部・教授

研究者番号：20340466

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、日本の大学におけるアラビア語学習者の動機づけ、態度、アラブ文化への興味、コミュニケーション能力に焦点をあてた学習者要因の解明によって、学習意欲を高めることであった。学習者要因に関しては、特に学習者のアラブ文化への興味を高めることで、アラビア語習得の成果につなげることができると考えられる。さらに、学習者意欲をあげるためには、学習者が望んでいるコミュニケーションに関わる要素を組み込んだ授業を推進していくことが必要であることが導き出された。同時に、学習者のアラビア語運用能力を培うためには、教師が文法をコミュニケーションを重視したアプローチへ効果的に取り入れていくことが重要であろう。

研究成果の概要(英文)：The goal of this study was to enhance students' desire to learn Arabic by enhancing their motivation, ability to communicate, attitude, and interest in Arabic culture. Elevating the students' interest in Arabic cultural elements in particular can strongly improve their acquisition of Arabic. To enhance their motivation, student-selected communicative activities should be incorporated into Arabic classes. To improve their working fluency in Arabic language, it is also important for teachers to effectively incorporate grammar into an approach based on communication.

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：外国語教育

キーワード：教育学 外国語 アラビア語 教授法 学習理論

## 1. 研究開始当初の背景

(1) グローバル化が進み、日本国内ではアラブ・イスラム世界への注目度が増していることを背景に、実用的なアラビア語への関心と習得の希望が高まっている。こうしたアラビア語学習者のニーズに応える教育を充実させるためには、アラビア語教育・学習の現状を詳細に把握しなければならない。本研究課題の研究代表者らが過去の研究(平成19~21年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「日本人のためのアラビア語教授法の開発 アラブ文化要素の効果的活用」)によって、アラビア語学習におけるアラブ文化学習の肯定的な役割などを確認してきた<sup>1</sup>。しかし、科学的調査や方法論に基づいた日本人学習者を対象とする実態把握が十分なされてきたわけではない。とくに、アラビア語習得の実現にむけて重要な構成要素となる学習意欲に関する要因のさらなる解明が急務である。

(2) 他方、諸外国のアラビア語教育においては、アラビア語教育の質の改善をめざして、20世紀後半から研究や実態調査が行われるようになり、その後進展をみせ、その成果が現在の教育実践の場に生かされている。その研究調査は、指導理念、指導法、学習者要因、評価、テクノロジーの応用、カリキュラム・デザインなど多岐にわたる。しかし、アラビア語教育の根幹ともいえる、学習者が正確かつ実際の役に立つアラビア語を習得するための方法論や指導法については、諸外国のアラビア語教育にあっても方向性は十分定まっていないうのである。すなわち、現在のアラビア語教育研究と実践においては、英語などの外国語教育研究と同様、コミュニケーションを基軸とした指導法であるコミュニケーション・ティーチングが主流となっているなかで、この指導法では正確な文法知識に裏付けられたアラビア語能力を学習者に習得させられていないのではないかと危惧する声が上がっている。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、日本の大学におけるアラビア語学習者の動機づけ、態度、アラブ文化への興味、コミュニケーション能力に焦点をあてた学習者要因の解明によって、学習意欲を高めることである。また学習意欲向上の鍵となるコミュニケーション・アプローチを土台とした新たな指導理念コミュニケーション・グラマーを提唱することでも、日本のアラビア語教育の質を高めるねらいがある。アラビア語学習者数が急激に増している現在、本研究の推進は急務といえる。日本はもとより世界のアラビア語教育でもほとんど研究されていない動機づけに着目するとともに、新しい指導理念を提唱することは、アラビア語教育研究の発展に寄与することにつながる。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究では4年間にわたり、2つの課題を遂行した。1つは学習者要因の調査、もう1つは指導理念の検証(コミュニケーション・アプローチの検証とコミュニケーション・グラマーの提唱)であった。どちらの課題も各年平行して進めた。両課題とも4年間を通して段階的に研究を遂行していき、と得られた各段階での成果を照合しながら、直接的あるいは間接的に相互の考察に生かしていくという手法をとった。

(2) 研究組織は、アラビア語の研究者3名、外国語教育の指導理念や指導法に明るい英語教育の研究者1名、そして統計データ解析と分析に詳しい心理学研究者1名から構成されていた。

<sup>1</sup> 鷲見朗子(研究代表者)(2010)『日本人のためのアラビア語教授法の開発 アラブ文化要素の効果的活用』平成19~21年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)研究課題番号19652060 科学研究費補助金研究成果報告書

## 4. 研究成果

(1) 本研究を遂行した結果、これまで明らかにされてこなかった日本におけるアラビア語教育の現状をみる事ができたと考える。また、アラビア語学習をめぐる日本の状況と海外の状況を事例研究によって比べることで、日本が遅れている、もしくは不足している面を認識することができたといえる。さらには、日本と欧米・アラブ諸国のそれぞれが直面する、あるいは共通の問題点が、浮かび上がってきた。日本のアラビア語教育の質を向上させるという観点から、海外の教育から学ぶべき点も多い。

第1に、日本のアラビア語学習者は、アラブ文化への関心が高く、アラビア語学習の動機づけと文化への興味が密接に結びついていることが明らかとなった。これについては、DVDなどの視聴覚教材を用いた指導法を通して、アラブ文化を授業にとり入れることで、文化的背景に依拠したアラビア語のティーチングを推進することが提案された。また、海外のアラビア語プログラムでみられたcocurricular(正課と併行しての)としての文化活動の例などが参考になる。

第2に、日本のアラビア語学習者の望んでいるスキル・知識とかれらが認識する授業で重視されているスキル・知識に不一致がみられる。つまり、学習者は「話す」「聴く」「読解と表現」「アラブ文化理解」などのコミュニケーション力を中心とした能力の養成を希望しているにもかかわらず、それらは授業では重視されていないと判断し、むしろ教師が「文法」「読む」「書く」を重視していると感じていることが明らかになった。まず非アラビア語専攻の大学生を対象とした調査を行った。しかし、この結果は研究代表者らが

過去に実施したアラビア語専攻の大学生対象の研究においてもよく似た傾向を示したことから、日本の大学のアラビア語学習者全般における状況であると考えられる。したがって、日本のアラビア語教育は、文法や読解に偏りすぎであることは明らかである。

この第2の点は、コミュニケーションと文法をいかに効果的に統合するかという問題に直結している。現在の米国のアラビア語教育ではコミュニケーション・アプローチが主流であるため、文法軽視がアラビア語教育の質を下けている一因にもなっている。また、アラブ諸国における非アラビア話者へのアラビア語教育においてもコミュニケーション手法が採用されている。イマージョン環境を作り出しているこれらの海外の事例からも、文法をどのようにコミュニケーションなアプローチに組み込んでいくかについて見習うべき点も多いであろう。また、教室内で活発なインタラクションが行われるようなコミュニケーション活動を取り入れていくことが望ましい。

コミュニケーションと文法は、「意味」と「形式」と言い換えることもでき、相反している関係にあるといえる。しかし、近年、外国語教授法においてはフォーカス・オン・フォーム(「言語形式の焦点化」)あるいはグラマリングと呼ばれる、両者をうまく統合しようというアプローチが見直されるとともに注目されている。コミュニケーション・グラマーも類似の概念を持つ。

フォーカス・オン・フォームは「意味に焦点を当てた授業の中で、生徒が遭遇する発話や内容理解の問題に対して、彼らの注意を言語形式に向けさせる試み」のことである<sup>2</sup>。コミュニケーション・グラマーとは実際の言語使用、つまりコミュニケーションに役立つ文法を教えようという試みを意味する。Geoffrey Leech・Jan Svartvik(1994)によると、(英語教育における)コミュニケーション・アプローチでは、文法は重要ではないとみなされがちであるが、そうではない。かれらはその主な理由を次の5つにまとめている<sup>3</sup>。コミュニケーション能力を形成する1つの構成要素は文法である、文法構造は意味(meaning)、使用、状況に体系的に関連している、文法を知識としてでなく言語使用のなかでとらえることができる、コミュニケーションは「話す」「聴く」ことだけでなく、「書く」「読む」ことも含んでいる、文法書における例文は、文法学者によって作られたものが多く、ぎこちなく不自然であるが、それをやめて実際に使われる例文を用いれば、言語を機能させることができ、「コミュニケーションしたい意味」を伝えることができる。またグラマリングとは、文法を静止して動かない知識としてではなく、スキル、あるいはダイナミックなプロセスとして捉えることを指す<sup>4</sup>。

(2) 上にあげた第1と第2の点は、学習者の動機づけという観点から、日本のアラビア語教育における課題と改善策を示唆しているといえよう。まず、アラビア語授業にアラブ文化の要素を組み入れることによって、学習者の学習意欲が高まることが予想される。今後は、よりアラブ文化を意識したカリキュラム作り、教材作成、授業計画が求められる。次に学習者の希望しているスキル・知識と授業で重きがおかれているスキル・知識の不一致という結果は、学習者中心ではなく教師中心の授業が行われていることを意味する。学習者の動機づけ向上を目指すためには、学習者が望むコミュニケーション力を養成する授業を提供しなければならない。

学習者の希望をかなえていくことは意欲を高めるという点で非常に大切である一方、言語習得の実現を目標とするならば、真のアラビア語力とはなにかを再考し、それを学習者がつけられるような教育を行うことが重要であろう。ここで研究代表者らが重要視しているのが、ティーチングで扱うコミュニケーションと文法との均衡である。学習者は文法よりコミュニケーションを志向しているが、文法という土台の上に立たないコミュニケーション力は、効力を十分発揮しない。また、アラビア語力というとき、文法・語彙等の知識のみならず文化の知識も当然含まれる。外国語で意思疎通するためには、その言語世界の人びとの生活様式、行動様式、ものの考え方、またその人びとが生みだした芸術や社会の諸側面も理解していなければならない。

これらの問題点を踏まえて、本研究では「コミュニケーション・グラマー」を推進していくべきであるという結論を導き出した。今後の課題としては、コミュニケーション・グラマーのアラビア語学習モデルを発展させ、構築していくこと、そして今研究では十分考察しえなかったアラビア語教育における方言の位置づけを明確にしていくことがあげられる。コミュニケーション・グラマーと方言はいずれも、日本だけでなく、諸外国のアラビア語教育・学習で研究調査が推進されるべき重要な主題である。これらを追究することによって、学習者の学習意欲を向上させ、真のアラビア語力を養成できる教育の実現を目指していきたい。

<sup>2</sup> 和泉伸一『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』(大修館書店、2009年) p.145.

<sup>3</sup> Geoffrey Leech and Jan Svartvik, *A Communicative Grammar of English*, 2nd ed. (London and New York: Longman, 1994), pp.3-5.

<sup>4</sup> Diane Larsen-Freeman, *Teaching Language: from Grammar to Grammaticing* (Boston: Heinle Cengage Learning, 2003), p.24.

\*本報告は平成 26 年 3 月に著した本研究の報告書(5.〔図書〕参照)の一部に依拠している。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

Sumi, A. M. and Sumi, K. Interests and Motivation among Arabic Language Learners in Japan: A Comparative Study of Majors of University Students. *Proceedings of the 12th Tunisia-Japan Symposium on Society, Sciences and Technology (TJASSST) 2013 Hammamet Tunisia 15-18 November 2013*, 19-21 in Session VI: Humanities and Social Sciences (2014) 査読無

鷺見朗子・高梨庸雄・森口明美・畑下仁美・橘堂弘文 チュニジアにおけるアラビア語授業観察の分析 「良い授業」とは、『京都ノートルダム女子大学研究紀要』第 44 号 11-24 (2014) 査読無

鷺見朗子 外国語教育における文化学習の重要性 アラビア語授業とアラブ文化大学コンソーシアム京都 『2013 年度第 19 回 FD フォーラム報告集』第 11 分科会「異文化理解と多文化交流を深める授業の計画と実践」(印刷中) 査読無

Sumi, A. M. and Sumi, K. Skills and Knowledge Acquisition of Arabic Language in Japanese University Classes: Differences in Nine Elements between Desire of Students and Emphasis in Class among Non-Arabic Major Students. *Proceedings of the 2nd Edition Algeria-Japan Academic Symposium, Sustainable Society through Advanced Sciences, Oran, Algeria 17 May 2012*, The 2<sup>nd</sup> Algeria-Japan Academic Symposium Organizers, University of Sciences and Technology of Oran-MB, Oran, Algeria, 84-88 (2012) 査読無

Sumi, A. M. and Sumi, K. Skills and Knowledge Acquisition of Arabic Language in Japanese University Classes: Differences in Skills and Knowledge between Those Desired by Students and Those Emphasized in Class. *Proceedings of the 10th Edition Tunisia-Japan Symposium on Society, Sciences and Technology (TJASSST) 2009 Hammamet Tunisia 11-13 November 2009*, 432-435 (2010) 査読無

〔学会発表〕(計 8 件)

Sumi, A. M. and Sumi, K. Interests and Motivation among Arabic Language Learners in Japan: A Comparative Study of Majors of University Students. *Proceedings of the 12th Tunisia-Japan Symposium on Society, Sciences and Technology (TJASSST) 2013 Hammamet Tunisia 15-17 November 2013* (2013 年 11 月 16 日)

鷺見朗子・鷺見克典 アラビア語学習の興

味、志向、動機づけ アラビア語専攻、非アラビア語外国語専攻、非外国語専攻学生の比較、日本中東学会第 29 回年次大会、大阪大学 (2013 年 5 月 12 日)

Sumi, A. M. Arabic Acquisition and Interest in Arabic Culture among Japanese University Students, 2012 Annual Meeting, Middle East Studies Association, 20 November, 2012. Denver, USA (2012 年 11 月 20 日)

鷺見朗子 よりよいアラビア語教育を目指して 海外におけるアラビア語教育(ケース・スタディ)と大阪大学アラビア語専攻における教育の対比、サウジウィーク in 大阪、大阪大学外国語学部 (2012 年 10 月 11 日)

Sumi, A. M. and Sumi, K. Skills and Knowledge Acquisition of Arabic Language in Japanese University Classes: Differences in Nine Elements between Desire of Students and Emphasis in Class among Non-Arabic Major Students. *Proceedings of the 2nd Edition Algeria-Japan Academic Symposium, Sustainable Society through Advanced Sciences, Oran, Algeria 17 May 2012*, The 2<sup>nd</sup> Algeria-Japan Academic Symposium Organizers, University of Sciences and Technology of Oran-MB, Oran, Algeria (2012 年 5 月 17 日)

鷺見朗子・鷺見克典 アラビア語習得とアラブ文化への興味 アラビア語専攻学生と非アラビア語専攻学生の比較検討、日本中東学会第 27 回年次大会、京都大学 (2011 年 5 月 22 日)

Sumi, A. M. The Development of TV Broadcasting Teaching Materials at Open University, Japan: A Case of “Introductory Arabic.(アラビア語)サウジアラビア E ラーニング遠隔教育研修、日本国際協力センター (JICE)、放送大学 (2010 年 10 月 6 日)

鷺見朗子・鷺見克典 アラビア語学習者におけるアラブ文化への興味と習得内容 非アラビア語専攻学生を対象として、日本中東学会第 26 回年次大会、中央大学 (2010 年 5 月 9 日)

〔図書〕(計 2 件)

鷺見朗子(研究代表者)『学習意欲を高めるアラビア語教育 コミュニカティブ・グラマーの提唱』平成 22~25 年度科学研究費補助金(基盤研究 C)研究課題番号 22520599 科学研究費補助金研究成果報告書、全 76 頁 (2014)

鷺見朗子(編著) 依田純和(分担執筆、他 2 名) 教科書『初歩のアラビア語('11)』放送大学教育振興会 全 249 頁 (2011)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

鷺見朗子 テレビ放送教材『初歩のアラビア語（<sup>11</sup>）』全 15 回放送分（1 回につき 90 分授業）制作年 2011、放映予定年度 2011～2016（2011）

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

鷺見 朗子（SUMI, Akiko）  
京都ノートルダム女子大学・人間文化学  
部・教授  
研究者番号：20340466

##### (2) 研究分担者

鷺見 克典（SUMI, Katsunori）  
名古屋工業大学・工学研究科・教授  
研究者番号：70242906

依田 純和（YODA, Sumikazu）  
大阪大学・外国語学部・講師  
研究者番号：80423218  
（平成 24 年度より研究協力者）

##### (3) 研究協力者

高梨 庸雄（TAKANASHI, Tsuneo）  
弘前大学・名誉教授  
研究者番号：10113812

森口 明美（MORIGUCHI, Akemi）  
大阪大学・非常勤講師